

クチナシが境内に香る7月を迎えました。もうすぐオレンジ色のオニユリが咲き、セミの大合唱が始まるでしょう。幼稚園のお泊まり保育、CSの夏期学校、神学生の夏期派遣、夏の行事に主の恵みと祝福をお祈りいたします。

お金のはなし

ルカ 13～17 章は「イエス様と歩むエルサレムへの旅」の第二段落です。前半は、台所の匂いがいっぱいの「食卓」にまつわる話題でした。後半は、ビジネス雑誌でも開いているかのような「お金」にまつわる話がたくさん出てきます。今朝の 16 章にも、「財産」「会計」「富」「金持ち」が繰り返し登場します。これは、信仰が生活と深くつながっていることを私たちに示しています。聖書は「信仰は信仰、お金はお金」という割り切りをしません。私たちに何を伝えようとしているのでしょうか。

小事に忠実であれ

わかりやすいところからいきましょう。私の書齋には、この「小事に忠実な者は大事にも忠実である」という 10 節の御言葉と、「たしかに小事は小事である。だがいとも小さい事に忠実であることは、大したことである」というアウグスティヌスの言葉をずっと壁に貼っています。私たちは、戦争を終わらせたり、被災者を救出したり、逆に人を殺めたりということはないでしょう。きっと今週も、友達とおしゃべりをしたり、教会の集會に申し込んだり、本を読んで感銘を受けたり、また安売りセールに飛びついたりということがありそうなことです。でも、そんな小さな出来事の積み重ねが、自分の人生を作り上げているのであり、さらにその人間の集まりが社会を、そして世界と歴史の流れを作り上げているのです。小事に忠実であれ、その通りです。

一番難しい例え話？

でも、実は今朝の箇所はそれだけではありません。16 章には、二つの例え話がありますが、今朝の「不正な管理人のたとえ」は最も理解し難いイエス様の例え話です。市原先生が、「すべての下の句には『それにつけても金の欲しさよ』か『主を讃えよハレルヤアーメン』で結ばれる」と笑いながら紹介されたことを思い出します。

結論だけをいうと、人間の最大の喜びはどこにあるかを真剣に考えなさいということです。お金や財産は、決して悪いものではありません。しかし、人間にとってその魅力はあまりに強く、神の愛と恵みよりも素晴らしいのだと錯覚を起こす強い作用があります。本当の幸せである、神の愛と恵みは、友の愛を通じて感じられます。天国で迎えられる時、その喜びは、世の富で仕えた人々の、感謝の再会なのです。

これは究極の選択に迫られた時、どちらを選ぶことが幸せかを伝えているのです。